

情勢報告

地域資源の有効活用（畜産堆肥の展示による利用促進）



どの堆肥が良いかな！！

5月第2週から園芸農家を対象とした畜産堆肥展示を行った。展示方法は、9カ所の集出荷場で近隣畜産農家（対象農家6戸）の堆肥を展示し、園芸農家に堆肥に触れてもらうようにした。なお、堆肥が必要な園芸農家は、直接、畜産農家に連絡して供給を依頼する。

また、展示前には、畜産農家を巡回し堆肥の消費状況を調査した。今回の結果では、堆肥の需要と供給はほぼ均衡しており、中には需要に追いつかない事例も出てきた。

今後は、畜産農家による堆肥プレゼンテーションの実施や、ユズ農家を対象とした堆肥展示を実施し、地域内で堆肥が循環するよう推進していく予定である。

集出荷場の衛生チェック（GAPの取組）



5月11日に高温期に向けて腐敗果や異物混入等の防止のために、管内10箇所の集出荷場について衛生チェックを園芸連、農協とともに実施し、巡回後、改善が必要な点やチェックシート内容の見直しについて協議した。

この取組も3年目となり、出荷コンテナの汚れやトイレの清掃また、野鳥の飛び込み防止など改善が見られている。

今後も、定期的なチェック及びチェックシート内容の見直し等を行い、安全安心な生産物の出荷に向け関係機関とともに取組を進めていく。

安芸市環境保全型農業推進事業 21年度の取組がスタート



ベテラン農家も初心に戻って

安芸市では行政・JAが一体となって環境保全型農業を推進しており、県の補助事業も活用して、農家が購入する天敵や防虫ネットなどの購入経費について1/3～1/2を補助している。今年度も、事前に申し込みをした178人の農業者を対象に、21年度事業の採択に向けた説明会と講習会を5月12日から開催し、5会場で103人が参加した。

安芸市農林課から補助事業の要件等を説明したあと、振興センターからはスライドを使って「IPM技術による環境保全型農業－入門編－」として天敵を利用する際のポイントや土着天敵のタバコカスミカメの利用について、JAからは、微生物製剤や今年発売になったスワルスキーカブリダニについて説明した。安芸地域のナス・ピーマン栽培では、天敵の利用が欠かせない技術になっており、参加者からは、熱心な質問や意見交換があった。

また、事業参加者は「こうち環境・安全・安心点検シート」の記入やエコファーマーの取得が要件となっており、会の最後にシートや申請書を記入しながら、環境保全型農業の取組を確認していた。

## トンネルオクラ現地検討会



5月13日、14日に中芸地区のトンネルオクラ栽培農家を対象に現地検討会を行った。約50名の参加があり、発芽からトンネル除去までの反省、着果期の管理、梅雨時期の管理、などの栽培管理、さらにドリフト対策や生産履歴記帳について園地で研修した。主な病害虫とその対策の資料が好評で参加できなかった知り合いの農家に持って帰りたい声があり、不足分は支所に後日置くようにした。今年は天候不順から発芽不良も多かったが、生育ムラは少ないので、適正な追肥管理で安定生産につなげたい。

## 室戸の露地品目（オクラ、ししとう）の現地検討会を開催



現地検討会の様子

J A土佐あき室戸支所露地部会の現地検討会を5月13日（雨よけシシトウ：3戸/4戸）、5月15日（露地オクラ：6戸/6戸）に開催した。

振興センターは、開花前～収穫期までの栽培管理について指導をした。

シシトウの生育は順調でした。しかし、オクラは5月上旬までの朝の寒の影響で、一律に生育が遅れていた。

シシトウとオクラはともに県産業成長戦略に関係している品目であり、今後は、戦略シート・行動計画シートに基づいた活動を、J A・生産者とともに進める。

## 学び教えあい、高品質なユリを目指す



互いに栽培状況を比べ、技術を盗もうと熱心に見入る

5月19および21日にJA土佐あき花き部球根部会の月に1回行われる現地検討会が開催された。この会はユリ栽培農家12戸のうち、系統共販を行っている11戸の生産者圃場を全員で巡回し、互いに栽培状況を見せ合って批評しあい、栽培技術を高めていこうとするものである。この時期は1年間の最後の出荷とも重なり、皆忙しく、また4、5月に気温が上昇し、蒸発散量が急激に増加したあとであり、主に葉に生理障害が発生し、皆何らかの負担を抱えていた。

ほとんどの生産者は圃場の一部ではあるが、葉先に褐変等異常症状が現れ、栽培に苦心の跡がみられた。「もっと1回のかん水量を減らしてこまめに水をやらないかん。」とか、「秘密の肥料が効きすぎた。」とか相談し合いながら、特に、自分の圃場が舞台になると本人の真剣さは増し、説明、疑問点に応じて教えあい、お互いを高めていた。